

創立130年記念映画

学校をつくろう

— その時、若者たちは未来を見た —

激動の時代に太平洋を渡った

4人の創立者の青春時代

若手俳優が熱演

記念映画には、卒業生が
協力している。永島敏行さん
馬永胤に留学を勧めた西郷
隆盛役として出演。現在は米
国在住で「硫黄島からの手紙」や
米ドラマ「HEROESシーズン2」に出演した尾崎英二郎さん(平3経済)



永島敏行さん(左)と尾崎英二郎さん(右)が、映画『学校をつくろう』のDVDを手にしている。

撮影終了後、帰国する前日の5月10日、尾崎さんは神戸に滞在された。

16日に長野県内の小学校で行われる相馬永胤と田尻稲次郎の追悼式典シーンの撮影には、学生、卒業生、育友、専大松戸高校演劇部の有志約60人がエキストラとして協力。原作の『蒼翼の獅子たち』出版に尽力した菅沼堅吾育友会長、日南川裕一前会長も参加し、「オール専修」の力を結集した

卒業生の永島敏行さんが西郷隆盛役 国際俳優・尾崎英二郎さんも出演

激動の時代に米国に渡った創立者たちの苦労と情熱に思いをよせ、自らと重ね合わせながら演じましたと感想を話した。ロケは主に長野県松本市、上田市などで行われている。5月10日には、横浜港・氷川丸船上などで

都合により写真は掲載いたしません

永島敏行さん



神山征二郎監督の話

神山監督は、作品にかけると意気込みを次のように語っている。

『蒼翼の獅子たち』の志茂田景樹さんは、そのあとがきで、これまでになく資料を読破したと書いておられたが、映画化に当たり脚本担当の加藤伸代も負

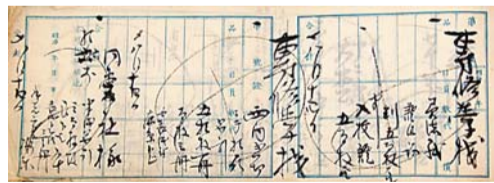
けず劣らず大学史資料課からお借りした山のような資料を精査した。映画には必ず「主人公」が必要だからまずこれを誰にするべきかを検討しなければならぬ。シナリオづくりの第一歩である。結果、相馬永胤を主人公と決した。

私共が現在鋭意製作中の「学校をつくろう」は専修大学の前身である専修学校の創立者たちの青春時代が、相馬永胤を中心にドラマは展開してゆく。新進気鋭の三浦貴大君がその大役に挑んで魅力的である。スタッフも明るい顔で働いている。この映画をつくるのが楽しいからに違いない。夏の完成に向けて私自身も一日一日を大事に生きて行こうと思っている。どうぞお楽しみに。

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。

都合により写真を掲載いたしません。紙面をご覧ください。



明治34年の大福帳には専修学校「の文」字が...

靖国通りの裏手、さくら通りの一角にある山形屋紙店(田記常光社長)。創業は専修大学より1年早い、明治12(1879)年。出版社が多い土地柄、神保町かいわいは紙店が多かった。時代と共に文具店などに姿を変えた店が多い中で、同店は131年、和紙一筋の看板を守る。手漉き和紙から書道用、手芸用の紙や工芸品まで、和紙にかかわる「あらゆるもの」がそろ



左から田記常光の子さ、店員の房村サトさん、吉澤道子さん

山形屋紙店

関東大震災に耐えた日本中の和紙

応じ、丁寧に探す。「普通、売れないものは在庫切れにするでしょ。うちではそうはいかないのよ。山形屋にいれば、どんな和紙でもそろって言われていますからね」

楽しんで語るのは、同店3代目・田記穰夫人のおの子さん。嫁いだのが1941年。以来、戦中をほさんで69年にわたる店を支え、3年前に穰さんを亡くしたあとも店に立つ。おの子さんが「良き相棒」と全幅の信頼を寄せるのは、50年のベテラン店員、房村サトさん。「値段で敬遠する人がいますけれど、職人さんのお苦労や伝統を見直す心を持っていただきたいわね。和紙を愛してやまない。コウゾ、ミツマタ、ガンピの強靱な靱皮繊維を主原料に、独特な流し漉き技術による和紙は1000年、原形を保つと言われる。日本の文化、生活に根付き、建具や文化財の修復をはじめ多彩な用途に生かされた。洋紙の普及、和紙産地での後継者不足、生産の機械化などで近年、和紙産業は大きく変わったが、強度に優れ、独特の風合い、美しさを持つ手漉き和紙の需要は絶えない。

同店のれんが造りの蔵は、神保町がガレキの山と化した大正12(1923)年の関東大震災に耐えた。現在でも、日本中から集められた和紙が保存される。おの子さんから見せていただいた明治34(1901)年の12月の大福帳には、専修学校(専修大学前身)の取引が記される。

※山形屋紙店 東京都千代田区神田神保町2-17-203 (322) 78229